一般社団法人 神奈川県作業療法士会

# 神奈川県作業療法士会ニュース

2011年3月 No.148

神奈川県作業療法士会ニュース148号　目次

1 会員の皆様へ　緊急のお知らせ
2 神奈川のOTたち
4 ここへ行ってきた
7 青年海外協力隊体験記
8 OTのためのIT講座
10 地域リハビリテーション部より
12 各部からのお知らせ
13 理事会抄録（１月20日分）
14 求人広告・講習会案内
16 県学会実行委員会からのお知らせ

## 会員の皆様へ　緊急のお知らせ

# 第13回神奈川県作業療法学会の中止及び第3回定期総会開催延期のお知らせ

一般社団法人　神奈川県作業療法士会　会　長　　渡邉　愼一
事務局長　澤口　　勇

このたびの東北地方太平洋沖地震にて被災された地域の皆様、関係の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

死亡･負傷者等の人的被害、住家被害の程度が甚大であったことに加え、避難者数が膨大であり、その後も余震が続いたことなどから、多くの住民が避難生活を余儀なくされています。神奈川県においても計画停電の実施、電車、バス等の交通公共機関の混乱や物流の滞りなど、これまで経験したことのない生活が始まりました。

神奈川県作業療法士会の会員の皆様におかれましては、被災地への物資の供給が少しでも安定するよう、日々の生活の節約に努めて頂ければ幸いです。また、日本作業療法士協会は、災害対策本部を設置し、活動を開始しています。義援金銀行口座などはHP（http://www.jaot.or.jp/）を参照してください。

被災地の一日も早い復興を心より祈念申し上げます。

さて、県士会HP並びに県学会HPにおいてすでに周知させて頂いておりますが、平成23年４月17日に北里大学相模原キャンパスで開催予定だった第13回神奈川県作業療法学会は、３月17日の理事会において、やむなく中止の決断をさせて頂きました。これまで開催に向けてご尽力されていた関係者各位並びに参加を予定されていた方においては誠に申し訳ございませんが､ご理解頂きますようお願いいたします。

また同日に北里大学相模原キャンパスを会場に第３回定期総会の開催も予定していましたが、県学会中止に伴い、総会も開催できなくなりました。

しかし平成23年度県士会事業を実施するためには、総会を開催し会員の皆様に議案を議決して頂く必要があります。よって総会を延期し、下記のとおり開催させて頂くことになりましたのでお知らせいたします｡震災後の社会情勢も緊迫しておりますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願い致します。

記

**第３回 一般社団法人 神奈川県作業療法士会定期総会**

**日時：平成23年５月28日㈯　15：00～16：00**
**場所：ウィリング横浜12階研修室124/125室**
**横浜市港南区上大岡西１－６－１**
**TEL　045－847－6666**

なお、諸般の事情によりご出席できない会員においては、**必ず同封のハガキ（委任状）**を、**５月20日㈮**までに県士会事務所に必着するようご投函ください。総会として成立するためには全会員の３分の１以上の出席（委任状を含む）が必要です。ご協力をお願いします。

注）封筒と委任状、議案書には、変更前の総会開催日、会場名、投函締切日が印刷されています。変更後の日程と会場、委任状締め切り日は､上記のとおりですのでお間違えにならないようご注意ください。

# 特別支援学校で「協働」するOT

砂川さん

皆さんは作業療法士が特別支援学校で教員として働いていることをご存知ですか？神奈川県教育委員会は、作業療法士などの専門職を「自立活動教諭」として、特別支援学校（神奈川県では養護学校と表記）に配属しています。

これは全国的にも珍しいシステムです。発達障害分野で働く作業療法士は、OTが特別支援学校に関わる必要性をこれまでずっと感じてきたのではないでしょうか？今回は、神奈川県立麻生養護学校で活躍されている砂川紀子（すながわのりこ）さんを訪問し、お話を伺ってきました。

## 神奈川県立麻生養護学校について教えてください

本校は川崎市麻生区に平成18年４月に開校した比較的新しい学校です。肢体不自由教育部門と知的障害教育部門があり、小学生から高校生までの335名（平成22年５月１日現在）の児童・生徒が在籍しています。本校は「地域のセンター機能」としての役割も担っており、私の所属する支援連携部の相談支援係では地域の学校に在籍するお子さんの相談も受けています。この係は、教育相談コーディネーター３名と、専門職のOT １名、PT １名で構成されています。

## この学校に就いた経緯を教えてください

神奈川県は平成20年６月、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士の４種の専門職を常勤の教員として採用しました。この採用に応募するためには、専門職として３年以上の経験が必要でした。私は発達障害分野のOTとして８年間の経験があり、応募して県職員として採用されました。現在、神奈川県立の養護学校24校中12校に、計23人の専門職が配属されています。その目的は、①養護学校に在籍する児童の障害の重度化・多様化に対応するため②養護学校が地域の学校の相談を受ける「センター的機能」を強化するためです。

## OTの業務内容は？

大きく分けて、本校に所属する生徒・教員・保護者への校内支援と、地域に対する支援の２つがあります。

相談の窓口は、教育相談コーディネーターが行っており、相談内容によって、誰が担当するのかを係内で話し合って決めています。

校内支援では、担任などから挙がった相談内容を受けて、生徒のクラスへ行き、授業場面の行動観察や状況に応じた関わりを行います。話し合いの中から環境や道具の調整などの支援方法について提案します。またケース会議に参加したり校内研修会を開催しています。新入学時期には、小・中・高校の１年生クラスを重点的に支援し、その後は相談があった生徒の評価のために各クラスに入っています。

地域に向けての支援は、地域の小・中学校の特別支援学級や専門職の配置されていない川崎・横浜市内の養護学校からの相談を主にうけています。地域の教員・保護者に対する研修会も開催します。

## 教員からよく挙がる相談は？

校内の担任からOTにあげられる内容としては、①姿勢が崩れやすい、②給食をうまく自食できない、あまり噛まない、③手元をよく見ない、④手先が不器用、などがあります。これらは先生にとって、なぜうまくできないのか、どう対応していいかの背景

砂川さんに教室を案内していただく

が理解しにくいために、子どもの「苦手な部分」や「問題行動」として映ります。また、よりよい支援を提供したいというニーズからくる相談も非常に多いです。

授業でいうと、個別課題の場面の相談を受けることが多いです。相談の流れの中で、生徒の発達的視点から伝えることで、より全体像を共有できることがあります。子どもに直接アプローチするのは、あくまでも担任であり、OTは間接的に子どもを支援することになります。「指導」というより、先生と「一緒に考える立場」ということを伝えるようにしています。

## 『教育』とOTの連携についてどんなことを思いますか？

学校で働いてみて、私たち医療専門職の「リハビリテーション」の概念と、先生の「教育」の考えは大きく異なると感じることは多々あります。先生たちと関わるうちに、教育のことをもっと知りたい、先生たちの思いや考えの背景を知りたいと強く思うようになりました。教育は対象者のプラス面を見て、医療は対象者のマイナス面を見がちだな…と気づくこともありました。

県内の養護学校に配属された専門職は、各職種ごとに年３回研修会が行われ、お互いの学校の状況や業務内容について情報交換をしています。それぞれの養護学校の歴史的背景や特徴によって、専門職に求められていることは違うように思います。OTとしても、学校の中で自分達に何ができるのかを模索しているところです。

時には先生との考え方の違いに戸惑うこともありますが、いろいろな思いを（ゴクゴク）飲み込んで、「子どもにとって何が有益か」に話を戻していくことで、考え方の違いを越えて先生と向き合っていけると思っています。また学校自身が、地域社会に向けてもっとどんな場所なのか、どんなことができるのかをアピールする必要性があるのではないかとも思っています。そうすることで、生徒達にとって何が有益か、を多くの分野が協働していけるきっかけになっていけるといいなと思います。

## 2年半経過して今思うことは？

赴任して１年目は、正直何をやっていいか分からず、本当にやっていけるのかなと不安に思っていました(笑)。でも３年近く経過し、先生たちと学校で協働する中で、今まで見えなかったものが見えてきました。例えば車椅子の使用を考える時に、校内の

砂川さんセレクトの、体育で使用する遊具・教材
備品購入時はOTとしての専門的視点を活用して、選択に関わりました
備品購入時はOTとしての専門性を発揮できる、とのこと

どの場面で、どのような目的で、どのくらい長く座るのか、など個への注目だけでなく、生活の場としての学校の情報をもっと得ても良かったなと反省させられました。

またOTが何気なく使っている「専門用語」を先生に説明することはとても難しく、言葉が通じにくい、言葉が違う、ということも実感しました。これまで医療の中で働いていた自分は、「自分がわかる言葉」で保護者に説明していたのかもしれないと気づかされました。

現在は、自分が関わることで子どもが少しでも生活しやすくなったり、先生になるほどと納得していただいた時、この学校にいてよかったと思う時があります。

教育現場で働く専門職は、ここで何ができるか、何をしなければいけないかを自分自身で考える必要があります。私は子どもたちが自分で伝えることができない「苦手な部分」や「問題行動」の理由を探し、それを先生や保護者に伝える方法を日々模索しています。「子どもの声になる」、それが今の自分にできることだと思っています。

インタビューしていて、子どもたち、先生、保護者、加えて学校資源の間のつなぎになりたい、という砂川さんの強い確信を持ったお気持ちが感じられました。やんわりとした人柄の中に、「子どもの声になりたい」という芯のようなものが、見えた気がします。子どもたちを学校に送り出す時期の支援に関わっている筆者も、砂川さんの話から学校との連携や「言葉」について、どこまで想定できているか、改めて考え直す機会を頂けました。養護学校への専門職配置はまだまだ始まったばかりですが、「子どもの声になる」ことを通して医療と教育が手をつなぐことができればいいなと思いました。

文責　杉本　馬場

# 職場見学会
# クラブハウス「すてっぷなな」

〒224-0041
横浜市都筑区仲町台5-2-25　ハスミドミトリー003号
TEL/FAX：045-949-1765
URL：http://www.geocities.jp/clubhouse_stepnana

行ってきました、福利部主催第３回職場見学会！１月14日に開催された今回の見学会では、市営地下鉄「仲町台」駅から徒歩６分にある地域活動支援センター（※以下：作業所）「すてっぷなな」にお邪魔しました。「すてっぷなな」は、神奈川県唯一の高次脳機能障害専門の作業所です。高次脳機能障害専門の作業所は全国に数か所ありますが、若年の高次脳機能障害に特化した施設は全国でもここだけだそうです。患者様が退院したあと、次のステップに踏み出す場所としてこの名前が付けられたそうです。

ところで皆さんの「作業所」のイメージはどんなものでしょうか？　一軒家の建物？　「○○作業所」と目立つ看板が立っている？　障害者が就労を目指して作業する場所？　障害者の日中の居場所？…「すてっぷなな」はこのようなイメージとは全く異なります。外観は全面ガラス張りで、室内に大きなウッドカウンターのあるお洒落なつくりです。見学に来た方が、「美容室だと思って通り過ぎた」というほどです。また、作業所の看板はなく、実習に来る学生は、迷わずに到着できないとのことです。

所長の作業療法士、野々垣睦美さんは養成校卒業後、神奈川県リハビリテーション病院で８年間勤務後、平成16年４月に「すてっぷなな」を立ち上げました。野々垣さんは、よくある作業所のイメージを避け、「お洒落な感じ」、「皆が来やすい感じ」、にこだわったそうです。これは利用者が中途障害者であり、自分が作業所で働く障害者だとは認めたがらない場合があるからだそうです。症候性てんかんや感情コントロールが難しい方もいるので、ロールカーテンで休憩スペースを設置したり、行方不明にならないよう出入口を一か所にするリスク管理をしたりと、随所に工夫が施されています。大きなウッドカウンターは、職員が利用者を常に見ていられるように、という目的もあるそうです。

見学会は１時間の予定でしたが、最後は質問が絶えず、結局１時間半に延長しました。以下は野々垣さんから伺った解説です。

---

「すてっぷなな」は、高次脳機能障害の方の社会復帰のための支援を行っています。事業は大きく分けて､「作業所事業」と「自立生活アシスタント事業」の２つがあります。横浜市の助成金で運営しているため、利用者は横浜市在住の方に限られます。また40才までの年齢制限があります。（自立生活アシスタント事業は、年齢制限はありません。）障害者手帳の有無は必要なく、高次脳機能障害の診断があれば利用可能です。

作業所事業では、病院から退院したばかりの方を対象に、次の作業所への橋渡し的な役割を担うとともに、就労支援も行なっています。登録者は定員15名で、利用開始時期は受傷後平均３年です。頭部外傷が多く、脳出血や低酸素性脳症の方もいます。１日の仕事の役割分担は、利用者に話し合って決めてもらい、支援者主導にならないようにしています。

作業内容は、犬用クッキー製造販売、ダイレクトメール発送事務、宅急便代理発送、ネットオークション、納品配達、カブトムシの販売（!?）など幅広いものになっています。大量生産ではなく、それ

左：青木さん
右：野々垣さん

すてっぷなな外観

ぞれの利用者ができる作業を担当していただくことを大切にしています。特に面白いのは、商品の「梱包作業」です。包装された「作品」がどうしてそんな形になるのか、思わず笑ってしまいます。高次脳機能障害の人は、ホントに立体構成が難しいようです。

就労支援では作業を通して働くための準備を行い、障害者職業センターと連携してジョブコーチに入ってもらうなどの支援をしています。私たちは、メンバーの行動がおかしいと感じることがあったら、すぐに「それ変だよ」と伝えるようにしています。就労後は、誰からも「おかしい」と言ってもらえない環境になるからです。

自立生活アシスタント事業は、生活環境を調整することで高次脳機能障害の方の在宅生活を支援しています。例えばヘルパーが過剰支援してしまい、本人ができることも全部やってしまっている場合があります。こんな時は、手順や環境を整えれば自分でできることや、その具体的な方法をヘルパーに伝えています。「すてっぷなな」では、この事業専任の作業療法士がいます。この業務をOTが担う意義は大きいと思います。

高次脳機能障害は、どの障害にも共通する部分が多い点が面白いと思います。認知症とは共通する部分が多く、基本的な対応は同じです。働く人なのか、子供はいるのかなど、生活背景の違いを考慮する必要はあります。また、知的障害と比較してみると、知的障害ではできることを積み重ねていきますが、高次脳機能障害はできていたことができなくなるという点が異なります。しかし感情コントロールが難しい場合に枠組みを作って支援する点は一緒です。障害そのものが原因でできない部分と、その人のキャラクターが原因となっていてできない部分とを分けて評価する必要があるのは、どの障害でも同じです。

病院はタテ割りで支援することが多いですが、その他多くの場所で支援する人々が手をつなげば、いろいろな所でサポートできるようになります。高次脳機能障害についての支援方法がわかれば、高次脳専門の作業所でなくても受け入れが可能になります。その結果、新しい社会資源が増えます。新しい社会資源を作るためには、分からないことを専門の人にどんどん聞いていくネットワークが大事です。そしてネットワーク構築の秘訣は、一緒に「飲むこと！」です。

見学会の様子

飲み会参加者

今回の職場見学会には、身体障害分野８名、精神障害分野６名、老年期分野２名、障害者職業センター１名が参加しました。臨床１年目の新人から、30年目のベテランまで、バラエティーに富んだ方々でした。

参加された目的を伺うと、「担当のケースが復職できない場合に利用できる資源を知りたかった」「ネットワークを広げたいと思った」「若いケースを担当した場合に利用できる施設を知りたかった」「精神科で慢性期の支援をしているが、若い高次脳障害の方も増えていて、行き場所に困っているので」「野々垣さんに会いたくて」…等々、色々な目的をもって参加されていました。

さらに感想を伺うと、「入院期間が決まっている病院では、OTができることは限られており、特に若いOTは機能訓練に目が行きがち。自分も例外ではなく、地域では何ができるのか見に来た。ためになった」(鎌倉市内の病院勤務しているＳさん)。「１年目のOTで、現在は老人保健施設で勤務している。認知症の方の担当をしているが、今回の高次脳機能障害と認知症は似ているという話を聞いて、臨床に活用できると思った」(老人保健施設勤務のＩさん)。「高次脳機能障害の方と直接関わったことが無かったが、認知症の方と対応が変わらないと聞いたので活用できると思った」(精神科認知症病棟勤務の方)など、それぞれの方が自分の臨床に活かせるお土産を持って帰ることができたようでした。

見学会の後に開催された懇親会には、ベテランOTから新人さんまで参加され、とても話がはずみました。先に紹介した自立生活アシスタント事業専任の作業療法士、青木明子さんを野々垣さんがスカウトした話や、見学会では出なかった爆笑裏話も飛び出しました。ネットワークの構築の秘訣は「飲むこと」！ネットワークは自分のためだけでなく、利用者にも役立つものだということを改めて感じました。筆者自身、新たなネットワークが構築され、とてもうれしく思いました。

文責　馬場

※地域活動支援センターとは

障害により、働くことが困難な障害者の日中活動をサポートする施設のこと。

新連載

# 青年海外協力隊体験記
# ～大草原の小さな私～

## 第１回　行ってみよう！

青年海外協力隊　平成23年度１次隊　堤由貴子

●執筆者プロフィール
大学卒業後一旦就職するも退職し、作業療法士資格を取得。現在、都内の病院勤務３年目。昨年、長年の夢であった青年海外協力隊の試験を受験し、合格。平成23年４月から約２カ月の語学訓練を経て、６月、青年海外協力隊員として赴任予定。

いつごろからか、漠然と私は青年海外協力隊員としてまだ見ぬどこか異国の地で過ごしたいと思っていた。一番影響を受けたのは、小学校の時の担任の先生だろうと思う。私の出身は福岡県の有明海のそばの田舎町である。そんな田舎の小学校で、先生は、自分が青年海外協力隊員として行った国のスライドをたくさん見せてくれた。先生は、竹で作られたバリ島の楽器を学校に持ってきて生徒と演奏したり、ドイツ語の歌を教えてくれたりと、海の向こうの風を私たちに届けてくれた。

それから、約20年がたった。行くべくして行く。必然、だと思っている。色々な思いがあった。大学でスペイン語を学んでから、私は、中南米を旅しながらラテンアメリカの文化に傾倒していった。また、イスラエル・パレスチナ問題に興味を持ち、イスラム文化にも惹かれていった。イスラムの街で聞くアザーンはとりわけ好きだ。「インシャアッラー（直訳：神の思し召しのまま）」この言葉には、なんともいえない響きを感じる。私は、青年海外協力隊の赴任希望地の欄に、それらの地域の国名を記入した。
そして、夢みていた。中南米や中東へ…！そして、それは夢のまま、という結末を迎えようとは夢にも思わなかった。

忘れもしない。それは、合格をインターネットで確認した日の翌日。JICAから封筒が届いた。赴任地が記載してある封筒だ。第一希望のエジプトかそれともコロンビア？ヨルダンだったら万々歳だ！と期待に胸を膨らませつつ、開いた紙には、「モンゴル」の文字…。目の前がまっくらになった。「目の前がまっくらになる」という事が、単なる表現ではなく、実際に起こることなんだと初めて知った。膝から崩れ落ち、再度見直したが、紙にはやっぱり「モンゴル」の四文字。そして、赴任場所は、首都「ウランバートル」の外傷・整形病院。できるだけ田舎の地域密着のNGOのような場所を希望していた私に、それはとどめを刺した。青年海外協力隊では、赴任地の希望は出せるが、それは、あくまでも「希望」であって、合格したからといって行きたいところへ行けるとは限らないのだ。

一旦は、再度受験し直そうと考えた。しかし、なかなか一筋縄でいかなかった自分の人生を振り返って、行こうと決意した。いつも希望どおりにいかないことが多い自分、でも不思議と結果的にはよかったと思える自分、今までそんなだった自分を信じて、行ってみよう、と思う。協力隊に行く人は、私みたいに色々な思いを抱えていくんだろうなとしみじみ感じつつ。

今は、こんな私でも必要としてくれるのならば、それに応えられるように力を尽くすのが礼儀だ、と考えている。モンゴルが私を呼んでくれている。

かくして、私はモンゴルへ向かうこととなった。まずは、OTとしての自身のレベルアップを。そして、モンゴル語習得のために４月から、訓練所に入隊してきます！

今後は、この場を借りてモンゴルより青年海外協力隊と作業療法にまつわる話についてお届けしていこうと思います。
ああ、でもモンゴル、寒いのやだな…

### 青年海外協力隊とは…

JICAボランティア事業は日本政府のODA予算により、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業です。開発途上国からの要請に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考、訓練を経て派遣します。青年海外協力隊は40年以上という長い歴史を持ち、これまでにのべ3万4000人を超える方々が参加しています。（JICAホームページより）作業療法士は経験年数が３年以上とする要請が最も多いようです。

# OTのためのIT講座

## 第６回　リクエスト特集
## 複数の写真を一括してサイズ変更！

講師
石川 敢也さん

松本　こんにちは！今回はですね、ちょっと聞きたいことがあるんですよ。

石川　あ～、この前に言ってたあれですね。職場近くで刺身と焼酎が美味しくて職人気質の大将とお嬢さんで切り盛りしてるリーズナブルで雰囲気の良い小料理の店の…

松本　いやいや、それはそうとして、聞きたいのはパソコンのことですよ！デジカメで撮った写真のサイズを変更したいんですけどね。

石川　最近のデジカメは画素数が高くて容量が大きいですからね。インターネットで使うには軽くしておかないと。

松本　そうなんです！でも写真のサイズ変更って面倒ですよね。パソコンのフォルダに溜まった多くの写真を、まとめて一気にサイズの変更をしたいんです。

石川　なるほど。１枚づつ画像編集ソフトで開いていくのは面倒ですね。こういうときは専用の無料ソフトを使いましょう。

### 無料ソフト「リサイズ超簡単！ Pro」をインストール

画像編集のソフトは有料・無料ともに多くの種類があり、デジカメの付録として添付されている場合もあります。しかし、写真などのファイルを一括して編集するには無料の専用ソフトを利用するのが手軽で便利です。

専用ソフトはたくさんの種類がありますが、今回は例として「リサイズ超簡単！ Pro」というフリーウェアを使ってみます。

● 「リサイズ超簡単!Pro」については下記のWebページに詳しい説明があります。

**http://my.reset.jp/~triton/RCKP.htm**

**①「リサイズ超簡単！ Pro」をフリーウェアのダウンロードができる「Vector」などからダウンロードします。**

**http://www.vector.co.jp/soft/win95/art/se305420.html**

キーワード〈リサイズ超簡単　Vector〉などで検索すれば簡単に見つかります。

●ダウンロードやインストールの際には、右のような、さまざまな警告画面が出ますが、今回は信頼して保存・実行して大丈夫です。

**②保存した後にダウンロードしたファイル「RCKP314.exe」をクリックして「次へ」を選択してインストールしましょう。**

「RCKP314.exe」の数字「314」の部分はバージョンによって異なります。

## 「リサイズ超簡単！ Pro」を使ってみよう！

**①インストールできたらスタートボタンの「すべてのプログラム」の中に「リサイズ超簡単!Pro」のフォルダが追加されているのを確認して「リサイズ超簡単！ Pro」をクリックして実行してみましょう。**

「リサイズ超簡単!Pro」は名前の通り、シンプルなの画面で簡単に画像ファイルのサイズ変更（リサイズ）ができます。

**②操作画面の【ステップ１】から【ステップ５】までを必要に応じて順に選択し、最後に右下の［変換開始］ボタンをクリックするだけです。必要のないメニューや分からないメニューは、そのまま［変換開始］で大丈夫です。**

● 【ステップ１】の操作でファイルを選択するときに、マウスで複数のファイルを選択できます。連続したファイルはマウス・ドラックで、任意に選択するには［Ctrl］キーを押しながらマウスでクリックして選択できます。

● ［変換開始］をクリックすると、【ステップ２】で指示した場所に「Resize」というフォルダが作られ、その中に新しいサイズのファイルが入っています。サイズ変更前の元のファイルはそのままなので、操作を間違えても心配いりません。

「リサイズ超簡単!Pro」はサイズの一括変更だけでなく、ファイル名の変更、撮影日時などを含むExif情報の操作などもできる便利な無料ソフトです。パソコンに詳しい人も、初心者の人も、ぜひ活用して画像ファイルを楽しんでみてください。

# 地域リハビリテーション部

## 地域リハ推進班

# シリーズ「認知症の作業療法」ベテランOTへのインタビュー

地域リハ部ではH21年度より、県内の障害者・当事者団体との交流・連携を推進する目的で活動取材を行い、県士会ニュースで紹介させて頂きました。取材の際に、認知症者の御家族から、「認知症の人に対して作業療法士がどのように関わっているのかわからない」「地域に作業療法士はいるのか？」といった声が聞かれました。それらの声からは、認知症者の地域生活支援に関わる作業療法士の少なさや、活動自体がよく知られていない現実が伺われました。

今回、地域リハ部推進班の試みとして、認知症の方に関わるベテラン作業療法士から、認知症の作業療法における基本的な考え方や、実践の工夫等を教えていただくインタビューを企画しました。現在そして今後、地域で認知症の方に関わる作業療法士にとって、実践のヒントとなることを期待しています。前号に引き続き、佐藤先生のインタビューをお届けします。

### 佐藤良枝先生　プロフィール

県内の養成校卒業後、静岡県で小児分野の作業療法に従事する。その後神奈川に戻り、介護老人保健施設（以下、老健）および曽我病院勤務を経て、老健の作業療法士としてリハビリテーション全般に従事。平成22年４月から再び曽我病院認知症治療病棟に勤務している。臨床25年目。

## 認知症のある方への作業療法〈後編〉OTへのメッセージ

財団法人積善会　曽我病院　認知症治療病棟
佐藤　良枝　先生

**―認知症のある方へ関わるOTへのメッセージをお願いします。**

まず１点目として、「幼稚にならないアクティビティ」の工夫をして欲しいということです。これは、心掛け一つで、今すぐにでもできることです。塗り絵はよく使われているアクティビティですが、子ども用の下絵を用いている場面を見かけたことがあります。自分の親や恩師、実習のスーパーバイザーなどの顔を思い浮かべて提供することに違和感はないか、人として当たり前の感覚を忘れずに、考え、工夫して欲しいと思います。

たとえば、「いろはかるた」を塗り絵の下絵にすれば、幼稚には見えないし、作業の途中で対象者が疲れたり飽きたりした場合でも「いろはかるたの『い』って何でしたか？」など、塗り絵から語想起へとその場で課題を切り変えることもできます。また、認知症の方は抽象思考力が低下しているので、簡略化した図柄は却って認知しにくく、写実的な図柄のほうが認知し易いことも念頭において工夫してみるとよいと思います。パンダさんやクマさん、お人形さんのような幼稚な題材はやめて頂きたいと思います。

その他にも、素材を工夫することによって工程を変えずに難易度を調整できますし、手続き記憶を上手に活用すると導入を円滑に行え、仕上がりも綺麗です。具体例は県士会サイトの「作業療法Tips－手工芸Tips」のコンテンツに掲載されているのでご参照ください。

**―少しの工夫で幼稚にならないアクティビティができますね。これはOTがもっと知恵を絞るべきことですね。**

２点目としては、「生活歴を活用したアクティビティ」を提供して欲しいということです。対象者の行動や対応のパターンを理解し、良い面を良い方向に活用できるようなアクティビティを提供する。それは「その方の生きてきた人生を理解した」という、コミュニケーションの象徴としても機能します。認知症の方は、日々喪失体験を重ねているので、アクティビティが単に、can（＝できる）やdo（＝する）を目指すのでは、その時できたことは確かにすごい

ことだけれども、いずれできなくなる時がきて喪失体験の反復・強調になってしまいます。「する」「できる」ということが、その方の「在りよう」に結び付くような、doでありbeでもある体験としてのアクティビティを提供できれば、そのアクティビティは対象者自身の支えにもなります。そして、具体的なエピソードとしてそのことを御家族に伝えられたなら、一見、何もわからなくなったかのように見えても、その方らしいところが今もきちんと残っている…御家族の歴史の中のその方の姿を現在に再定位・再認識できる機会を提供することにもなります。

OTとして再確認して欲しいことは、生活歴というのは、対象者が「何をしてきたか」ではなくて、「どのように生きてきたか」ということです。生活歴の活用について誤解している人が多いように感じていますが、重要なことは、生活歴の特性をよく理解して、生活歴の要素を対象者の今できることと結びつけ活用できるようにアクティビティをアレンジしたり選択することだと考えています。どこまでこちらが適切に生活歴を理解できるか、ということが最も重要なことだと思います。何にせよ生活歴は個別性の高いものですし、聴取の手段も機会も限られていますから。

**―やはり、ある程度時間をかけてその方と関わって、理解が深まっていくものでしょうね。**

そうですね。評価と治療は車の両輪のようなもので、治療を進めるごとに評価が深まって、相手のことがより理解できるようになれば、より適切な治療が提供できるようになっていくと思います。

３点目は、「表現形としてのBPSD」を理解して欲しいということです。「表現形としてのBPSD」という表現は、地域医療研修センターの八森淳先生が、認知症に関するシンポジウムで提唱されました。BPSDが起こる理由は、薬剤の副作用、身体的な不調によるものも多いとされています。また、不快刺激や不安なことをうまく言葉で表現できない時にもBPSDが出現するということは臨床現場で感じられている方が多いと思います。「表現形としてのBPSD」という言葉は、それらを非常に端的に適切に言い当てていると私は思います。BPSD＝悪いこと、と捉えられがちですが、能力があるからこそできることであり、どんな状況でどんな風にBPSDが出現しているかという中にこそ、その方の能力や特性が現れています。認知症のある方は、伝えたいことを適切に伝えられないことが多々あります。しかしその方の「表現形である」という認識を持てば、BPSDはピンチであるだけでなく、チャンスでもあります。その方の伝えたいこと、その方自身を理解するきっかけにもなり得るのです。

**―確かに。認識を変えてみると、BPSDを通して、見えてくるものや対応が変わりそうです。**

４点目は、「知識・技術は活用する」ということです。科学というのは過去の知識の修正の上に成り立つ学問です。現在、常識とされている考え方が10年後には全く変わる可能性もあります。多くの先人によって積み重ねられてきた知識と技術は大切です。けれど、目の前のＡさんに対して、今の常識が適切かというと、それはまた別問題です。今の知識と技術を対象者に当てはめるのではなくて、最前線にいるのは常に自分と対象者であって知識ではない。対象者の役に立てるように、対象者の利益になるように、知識と技術を活用して頂きたいと思います。

**―目の前の方を、持っている知識に当てはめようとしてしまうこと、恥ずかしながら私にもあります。当てはめるのではなく、一人ひとりの「○○さん」をよくするために、自分の持っている知識を統合して考えることが大切ですね。**

５点目は、専門的な本や論文だけでなく、当事者の本をもっと読んでいただきたいということです。当事者の方が考えている、感じている「現実」に触れる経験を通して、専門職が学び、類推できることはたくさんあります。認知症の方の御家族で、当事者の本を読んでいる方も大勢いらっしゃいます。論文を読むことは勿論必要ですが、当事者の本やサイトなど、御家族や御本人が接しているであろう情報にOTが関心をもち、知っておくことは、専門職のもう一つの役割として重要だと思います。まずは是非、読んでみてください。

**―佐藤先生、貴重なお話をいただき、本当にありがとうございました。**

---

後記：本インタビューはH22年10月のとある夕方に、曽我病院の認知症病棟リハビリテーション室で実施させて頂きました。当初１時間の予定が、気付けば３時間近く経過してしまう程、話題は尽きないものでした。丁寧に言葉を選び、お話される佐藤先生のお言葉は、長年認知症のある方と接し、悩み考え行動を積み重ねてきた、経験に裏打ちされた力強さの感じられるものでした。県内の様々な分野・場所で何らかの形で認知症のある方に関わっているOTの方は多くおられると思います。佐藤先生のお話から、認知症のある方との関わりを、より良き方向へと発展させるヒントが得られることを期待しています。（文責：河村）

---

# 各部からの報告

## 教育部

○連載！　県士会ウェブサイトから質問ができます！

### 「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

いよいよ新年度ですね。移動もあったりしてあれこれですね。そのスタートの前に皆さんの生涯教育制度の進度を改めてご確認して、今年度の目標を立ててみませんか。

以下いくつか考えられることを書きますので、ぜひ生涯教育手帳をご確認ください。

1．**そう言われても自分の現状がわからない。どうすればいい？！**
→心配御無用。教育部までご連絡ください。次に行うことを一緒に検討しましょう。

2．**貼っていないシールがある。**
→すぐに貼って月日や内容をご記入下さい。

3．**参加証明書がある。**
→県士会事務局へポイント手続きする（参加証明書、OT協会会員証コピー、切手貼付・宛名明記の返信用封筒を送付する。

4．**県士会役員や部員、事業の当日運営委員等の委嘱状がある。**
→県士会裁量ポイントとして年間最大２ポイント付与します、委嘱状と手帳を県士会へ送付してください。

5．**基礎研修がまだ終わらない。**
→まずは現職者共通、選択研修の修了、50ポイント取得して手続きへ。

6．**基礎研修は終了しているが、この先が…。**
→基礎研修修了期間に認定作業療法士取得を目指しましょう。ちなみに申請には50ポイントは不要です。
→認定作業療法士の申請に至らなくても、５年以内に50ポイントたまったら基礎研修修了の更新をOT協会に申請して下さい。

7．**そんなこと言っても、全然わからないんだけど…。**
→いつでも以下にお問い合わせください。また、教育部主催研修会時にご相談ください。県士会ウェブサイトからも質問できます。

＜問合せ先＞：教育部　奥原孝幸
昭和大学保健医療学部作業療法学科
045-985-6500㈹、kyoiku@kana-ot.com

## ウェブサイト管理委員会

### ○作業療法アイデア募集しています

よこ太：このコーナー、話題沸騰らしいよ！
ハマ子：誰も読んでないわよ、私たちのやりとりなんて。
よこ太：こないだ駅でさ「ヨコタさんですよね？サインお願いします」だって！
ハマ子：ジャガーさんの旦那と間違えられたんだよ。
よこ太：ん!? 似てるかな？
ハマ子：さてさて、何を紹介しようか？
よこ太：あっあれ、「作業療法アイデア募集」。
ハマ子：応募ゼロだってウェブ管の人が嘆いていたやつだ。
よこ太：僕が考えた更衣自助具「スーパー肘越え君」を応募しようと思ってさ。
ハマ子：前、失敗してた、左麻痺の人の袖通しのだね。
よこ太：あれは「肘越え君」。新バージョンを考案したの！
ハマ子：へえぇ…で、上手く行ったの？
よこ太：うん、でも自助具を外せないんだよねぇ…
ハマ子：話にならないじゃん。「作業療法アイデア募集」の情報はホームページの上部左段「会員へのお知らせ」にリンクがあります。チョットしたアイデアでもかまいません。ご応募お待ちしています！

（文責：ウェブサイト管理委員会　作田・大澤）
県士会サイトURL：http://kana-ot.com/

平成23年１月アクセスランキング
１位　再学習・筋触診　7302件
２位　講習会・研修会　4449件
３位　求人情報掲載板　3931件
４位　作業療法Tips　2946件
５位　オリジナル自助具の紹介　1491件

平成23年１月県士会ブログランキング
１位　第13回神奈川県OT学会　528件
２位　ウェブ管的知恵袋　235件
３位　鍼灸（中国）＋ 作業療法（日本）=??? 204件

更新件数：42件　訪問者延べ数：10630人
Kanaからの手紙発行回数：９回
１月末のトップページカウンタ数：571370

理事会報告

# 平成22年度　第５回　一般社団法人　神奈川県作業療法士会理事会　抄録

日　時：平成23年１月20日㈭　19：00 ～ 21：40
場　所：神奈川県作業療法士会事務所
出席理事：渡邉、佐藤、錠内、浅井、奥原、木村、作田、鈴木、机、冨山、中西、野々垣、野本、原、山路、澤口
出席監事：清宮、長谷川　その他：中尾、金山、半田（事務局書記）、松本（広報部）、名古屋、竹田（事務局）

●事務局（澤口事務局長）
１）渉外活動（主に11月～１月）
・賀詞交歓会に出席（日時はすべて１月；団体名のみ記載）
県栄養士会（渡邉会長）、県臨床衛生検査技師会（錠内副会長）
県病院協会（渡邉会長）、県放射線技師会（佐藤副会長）、
県看護協会（錠内副会長）
出席：佐藤副会長
２）県士会会員の委員派遣依頼
・小田原市障害程度区分認定審査会委員
１名推薦依頼あり。任期はH23/ ４～H25/ ３まで。人選中。
・相模原市障害程度区分認定審査会委員
４名推薦依頼あり。任期は同上。現職のうち３名（坂本　豊、渡邉　誠：北里大学、斎藤和夫：淵野辺総合病院）は継続。他１名を人選中。
・厚木市障害程度区分認定審査会委員
２名推薦依頼あり。谷口順子、小野　学（七沢リハビリテーション病院　脳血管センター）を推薦。
３）研修会等周知依頼⇒HPにて掲載済み
・映画「精神」上映会～こころの傷に特効薬、ありますか？～
主催：神奈川県精神障害者支援３団体交流研修事業
日時：H23/ １/27㈭13：00 ～ 16：30（受付：12：30）
場所：鎌倉芸術館　小ホール
・国土交通省「高齢者等住居安定化推進事業」選定「みんなにやさしい横浜の住生活モデル事業」セラピストのためのベーシックセミナー
主催：NPO法人横浜市まちづくりセンター
日時：H23/ １/22㈯13：30 ～ 16：30（受付13：00 ～）
場所：横浜市総合リハビリテーションセンター４階研修室
内容：建築の基礎知識講習（建築・設計・施工とは、住宅用福祉機器の体験見学など）
講師：N-Brains（国際医療福祉大学大学院野村歡研究グループ）
選任講師・鈴木基恵氏（１級建築士・FJC ２級）・
畠山正広氏（１級建築士・FJC ２級）
４）事業連携協力依頼⇒臨時三役会を12/ ４に開催し、承認。
・依頼団体：社団法人かながわ住まい・まちづくり協会
・事業名：国庫補助・高齢者等住居安定化推進事業（ケア連携型バリアフリー改修体制整備部門）「神奈川県住まいのバリアフリーリフォーム支援事業」
・事業主体：代表提案者　社団法人かながわ住まい・まちづくり協会／共同提案者：社団法人かながわ福祉サービス振興会、鎌倉市・茅ヶ崎市・逗子市の各社会福祉協議会
事業実施期間：（当初の予定）H22/10 ～H25/ ２
事業の趣旨：在宅のバリアフリーリフォームにおける建築を医療・福祉
分野と連携（チームアプローチ）して行うことで良質なバリアフリー住宅
改修や福祉用具の適切な活用など、福祉住環境を整備する為の支援を行い、神奈川県内における支援体制を構築することを目的とする。
・依頼内容：実際に建築士とともにお客様宅へ訪問し、改修プラン作成への助言、改修内容の評価を行う。
・登録数：３～４名程度の依頼であったが人員不足。パイロット的
に錠内副会長が派遣。今後は提携内容を文書で確認。締結は次年度の予定。
６）後援依頼⇒承認
・第９回神奈川県介護支援専門員研究大会
日時：H23/ ２/11（金・祝日）　場所：フォーラム246（伊勢原市）
内容：研究発表、基調講演（渡辺哲雄：中日新聞・老いの風景執筆者）、公開討論会
７）県士会役員選挙について
・選挙管理委員の推薦（５名）⇒承認
鴻井建三、山岸誠、椎名えりか、古田崇浩、鈴木康弘（横浜市立大学附属市民総合医療センター）
８）総会議案書：各部・委員会からの事業計画を検討。予算を勘案し２/ ７臨時三役会にて次年度事業計画を再調整する。

●財務部（野々垣理事）
１）会費納入率（12/31現在）：82.58%　＜会員数：1625名　納入件数：1342名＞
２）H22年度１月～３月の執行状況：予算上の必要経費に対し、銀行残高が少ない。研修費などの収入は早急に事務局へ
３）次年度予算について
・各部・委員会からの事業計画、予算案に基づき、２月の臨時三役会議で検討する。財務部も臨時三役会に出席する。

●学術部（中西理事）
・講習会実施報告；精神障害分野；H22/12/ ８に開催
「精神科における身体障害評価とアプローチの基礎Ⅱ」
講師：平賀よしみPT（北里大学東病院）
受講者数：41名（会員38名、会員外３名）
・学術誌刊行報告：１月中に刊行予定だったが、依頼原稿が一部未到着であるため、２月刊行に変更。表紙デザインについては編集委員会にて検討中。

●広報部（野本理事）
・「OT体験デイ」実施予定
日時：H23/ ２/13㈰　10時～ 15時
場所：神奈川労働プラザ　内容：公開講座、activity体験コーナー、自助具・装具紹介コーナー、作業療法紹介コーナー

●福利部（冨山理事）
１）第３回職場見学会実施
日時：2011/ １/14　19:00 ～ 20:00　場所：クラブハウスすてっぷ゜なな
講師：野々垣睦美　参加者：15名
２）次年度計画において
・新入会員オリエンテーションおよび歓迎会の開催時期を例年秋であったがより早期にできないか検討。教育部と連携していく。

●地域リハビリテーション部（木村理事）
１）パイロット事業（今期）について
・学術誌への掲載（11月末締切り）事業の経過を紹介
・講習会終了後６ヶ月後に参加者（当事者・医療従事者）へアンケート調査⇒実施中
２）パイロット事業（来年度）について
・OT協会より採択の連絡あり。助成額は660,000円。
３）研修会報告
・第１回訪問リハビリテーション実務者研修会※PT士会、STと共同開催
日時：H23/ １/15㈯16㈰２日間
会場：横浜リハビリテーション専門学校
参加者：OT37名　PT59名　ST18名　＋　St20名　計134名
４）PTOT地域ケアネットワーク合同研修会の来年度開催について
⇒開催して18年経過。職種間でのネットワーク作りという会の役割は十分果たせたことと、時代に合わなくなったということで発展的に解消とする⇒承認

●学会評議委員会（原理事）
「第１回神奈川県作業療法臨床研究大会（仮称）」大会長の公募
「第14回神奈川県作業療法学会」学会長の公募
・募集方法：チラシ、ホームページ
・募集期間：H23/ ２（１ヶ月間）
・会長の決定：募集を受け３月理事会で検討し、第13回県作業療法学会で発表（予定）。※紙面の都合で以下、並びに一部割愛しています…詳細は県士会Webをご覧下さい
（文責：澤口）

求　人

## 人間作業モデル講習会
### ＜神奈川会場＞開催のご案内
### ～人間作業モデル改訂第３版に基づいて～

この度、作業療法の概念的実践モデルである人間作業モデルの講習会＜神奈川会場＞を下記の要領にて開催する運びとなりましたのでご案内申し上げます。

記

日　時：2011年３月26日㈯９：00～17：00　27日㈰９：00～17：00
　　２日間
場　所：神奈川県立保健福祉大学
　　〒238-8522　神奈川県横須賀市平成町１-10- １
講　師：山田　孝　日本作業行動学会会長、
　　首都大学東京大学院人間健康科学研究科
　　笹 田 哲　日本作業行動学会理事、神奈川県立保健福祉大学
内　容：　事例を通しての人間作業モデル＜第３版＞の紹介
　　人間作業モデル＜第３版＞の理論的変化
　　人間作業モデル＜第３版＞の評価法概説・作業機能障害の説明・事例
受講料：両日：学会会員9,000円　非会員11,000円　学生4,500円

※当日、学会に入会された方は、会員の受講料となります。
※リピータの方（以前に受講された方）は会員6000円、非会員8000円といたします。

＊日本作業療法士協会生涯教育制度において両日参加で２ポイント、１日参加で１ポイントが認定されます。

申込方法：
E-mailでのお申し込みが可能です。件名に「人間作業モデル講習会＜神奈川会場＞参加申込」、メッセージ欄に「氏名」「会員・非会員・学生；リピータの別」「所属施設名」「所属施設の郵便番号・住所」を記入してお送り下さい。所属施設以外の連絡先をご希望の方はその旨をご記入ください。講習会参加確認書、公文書、会場アクセスを送付いたします。
申込締切：2011年３月18日㈮

**申込　および　問い合わせ先：**
**〒010-8543　秋田市本道１-１-１　秋田大学大学院医学系研究科　石井良和**
**TEL＆FAX　018-884-6538（直通）　E-mail:　objim@jsrob.org**

求　人

## 臨床実習指導者のための教育ワークショップ

臨床実習指導者として指導者に必要な教育手法を体得するために、参加者主体で課題を達成していくセミナーです。
このワークショップを通じて、臨床現場で指導者として求められる教育方法を、体系立てて指導していくことの必要性・有用性を体験して頂けます。
（※臨床実習指導者の未経験の方でもご参加いただける内容となっています。）

開催日時：平成23年５月29日㈰　９：00～17：30（受付：８：45～）
場所：昭和大学保健医療学部（長津田キャンパス）
　　地図・交通アクセス（http://www.nr.showa-u.ac.jp/access.htm）
参加費：会員1000円、非会員　1500円
＊OT協会生涯教育制度：OT協会生涯教育制度・基礎コース１ポイントの付与対象です。
定員：20名（定員になり次第締め切りとさせて頂きます）
申し込み方法：以下の内容をメールに記入し、
件名「セミナー参加希望」としotd@nr.showa-u.ac.jpに送信して下さい（携帯メール可）。
１．参加者氏名　２．所属　３．返信先アドレス
４．実習指導者の経験の有無

**問い合わせ先：昭和作業療法卒後教育セミナー事務局**
**横浜市緑区十日市場町1865　昭和大学保健医療学部作業療法学科内＜E-mail：otd@nr.showa-u.ac.jp＞**
**入会案内について：**
**＜http://www.nr.showa-u.ac.jp/ot/semi/index.html＞**

求　人

## 作業療法士　募集

募集人員：若干名
就労期間：即日～平成24年３月31日
応募資格：作業療法士免許を有する方
　　＊有経験者を希望＊
待　　遇：非常勤職員としての雇用です
　　給与：本市規定による　1864円／時給
　　手当：交通費相当分支給
勤務時間：８時30分～17時15分
　　※頻度・時間等は相談に応じます
休　　日：４週８休制（土曜・日曜勤務有り）
応募方法：電話連絡の上、面接をいたします。
　　履歴書・免許証の写しをご持参ください。
　　※まずはお気軽にお問い合わせ下さい

**問い合わせ先**
**横浜市立脳血管医療センター**
**〒235-0012　横浜市磯子区滝頭１－２－１**
**TEL 045-753-2768（直通）FAX 045-753-2905**
**リハビリテーション部　遠藤まで**
**Eメール：by-ysbckanrika@city.yokohama.jp**
**http://www.city.yokohama.jp/me/byouin/nou/**

求　人

## 作業療法士　募集

募集人員：臨時職員１名
就労期間：平成23年４月１日～
応募資格：作業療法士免許を有する方
待　　遇：給与・手当　当院規定による
勤務時間：月～金　８：30～17：15
休　　日：土・日・祝日は休み（第３土曜日出勤）
応募方法：電話連絡の上、履歴書（写真貼付）・
　　免許証の写しを持参又は下記宛に郵送
交　　通：小田急線愛甲石田駅より七沢病院行き
　　バスを利用（所要時間25分）
　　マイカー通勤可

**問い合わせ先**
**七沢リハビリテーション病院**
**脳血管センター**
**〒243-0121　神奈川県厚木市七沢1304**
**TEL　046-249-2806（総務局総務課）**
**FAX　046-249-2903**
**総務局総務課　藤川・臼井まで**
**Eメール：nanasomu@kanagawa-rehab.or.jp**
**URL：http://www.kanagawa-rehab.or.jp**

求　人

# 作業療法士募集

## 回復期リハ増床（１病棟40床から２病棟92床へ）のため

**募集人員**：常勤５名～10名

**施設概要**：法人として、１病院（267床）１老健施設（80床）８診療所
デイケア、デイサービス、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、包括支援センター等を運営

**待　遇**：当法人規定により優遇。経験年数加算。
昇給年１回。賞与年２回。

**福利厚生**：各種社会保険、共済保険、退職金制度

**勤務時間**：９：00～17：00

**休　日**：現在４週６休、2011年度より４週８休予定
夏休み５日、冬休み６日、初年度有給休暇10日

**その他**：学会、研修会参加、院内学習会あり
病院勤務者の他、老健、デイケア勤務者も同時募集

**応募方法**：電話連絡の上、履歴署を持参又は下記宛に郵送して下さい。
（見学は月、水、金の午後）

**交　通**：川崎駅より大師線バス15分、桜本バス停下車

川崎医療生活協同組合

**川崎協同病院**

〒210－0833　神奈川県川崎市川崎区桜本２－１－５
TEL：044－299－4781（代表）044－277－2127（直通）
採用担当　小林

Ｅメール　h.kobayashi@kawaikyo.or.jp
URL　http://kawasaki-kyodo.hospi.jp

# 第13回神奈川県作業療法学会の中止について

このたびの東北地方太平洋沖地震に被災された皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

本学会の開催にあたり各方面へご心配をおかけ致しましたが、この度の事情を鑑み、３月17日に行われました神奈川県作業療法士会理事会において、第13回神奈川県作業療法学会の中止が決定されました。理事会の中止決定を受け、学会実行委員会より本学会の中止について、ここにご案内申し上げます。

第13回神奈川県作業療法学会が開催される相模原市におきましても、４月末までの計画停電が予定されております。本学会の開始時刻を10時としておりますが、当日の各交通機関の運行状況が未確定であり、県士会員の参加が困難な状況が想定されます。また、学会場となります北里大学相模原キャンパスは被害等を認めておりませんが、安全点検中であります。北里大学の使用許可についても改めて協議する必要があり、使用許可に変更が生じることも予測されます。

このような状況から誠に残念ではございますが､本学会を中止することに決定致しました。本学会の開催準備にご尽力された各部員、委員の皆様、また本学会に演題登録された県士会員の皆様、座長、ならびに各プログラムの講師をお引き受け頂いた皆様には心からお詫び申し上げます。

重ねて震災からの一日も早い復興を祈念致します。

平成23年３月18日

第13回神奈川県作業療法学会
学　会　長　浅井　憲義
実行委員長　渡邉　誠

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース　＜148号＞2011年３月発行（年６回発行）
発行責任者　渡邉愼一
編集責任者　野本義則
編 集 担 当　松本政悦・大宮幸恵・菊地美帆・千葉友浩・馬場順子・杉本美穂・矢野竜也・堤由貴子
印刷　発送　第一資料印刷株式会社
事　務　局　〒231-0011　横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301 号　TEL/FAX：045-663-5997
月火水木金　10：00～16：00　メールアドレス：jimu@kana-ot.com
一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト http://kana-ot.com/　作業療法　神奈川　検索